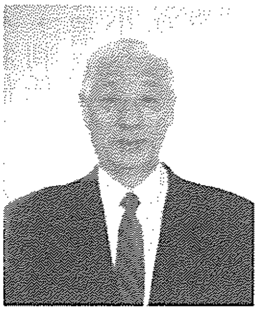
ふくしま県人会だより

第14号
平成18年8月
福島県人会
北海道連合会

会長あいさつ

会長　長谷川　顕



『福島県人会だより』発刊に当たり一言御挨拶を申し上げます。

天候不順と言われる今年の夏も漸く気温の高い日が続くようになりました。会員の皆様にはお変わりなくお過ごしのことと推察申し上げます。

去る五月二十七日に開催された北海道連合会総会は、苫小牧県人会の献身的な御協力により、盛会裡に終了いたしましたことを先以て御報告いたします。苫小牧県人会の皆様には衷心より厚く御礼申し上げます。大変有難うございました。

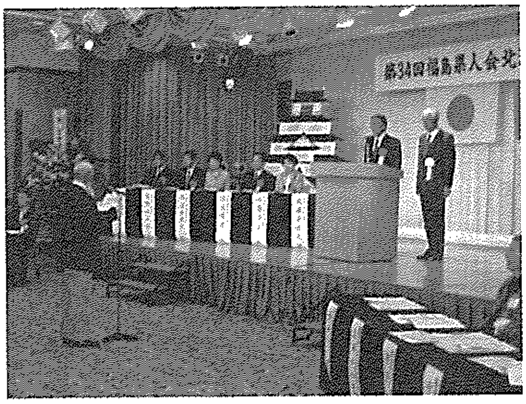
当日は公務多忙な中、佐藤知事御夫妻を始め渡辺県議会議長御夫妻、会津若松市長菅家一郎様の御臨席を賜り、大変有意義な総会を開催することができ感激いたしております。御来賓の皆様には、総会前夜に苫小牧入りをされ、当日早朝より苫小牧市の礎を築いた、旧会津藩士原直次郎の墓参を、お孫さんの原芳子苫小牧中央高校理事長の御案内で済まされましたことを御報告いたします。

佐藤知事に於かれましては、公務多忙のため総会終了後の懇親会に出席できず帰庁され、出席会員共々残念でなりませんでした。またの機会を楽しみにしております。

さて、来年は三年に一度の母県訪問の年に当たります。多くの方の参加を望みますが、年々高齢化が進み不参加が多くなるのではないかと危惧いたしております。今から大勢の方の参加を期待いたしております。母県福島も驚異的発展を遂げ、また全国的にも文化、行政、歴史的に注視される県となってきております。母県を離れた私達も、今一度故郷を見つめ直す良い機会と思っております。

最後になりましたが、来年の北海道連合会総会は紋別地区県人会の協力を頂き紋別市に於いて開催されることに決定されております。多くの会員が参加されますことを期待を込めてお待ちいたします。

それでは、会員の皆様と各県人会の益々の御隆昌と御繁栄、御健勝を祈念いたしまして御挨拶に代えさせて頂きます。



会員通信

福島県人会北海道連合会 総会の収穫

苫小牧福島県人会
会長　神野　修

平成十八年五月二十七日に開催された、第三十四回福島県人会北海道連合会総会は、絶好の天候に恵まれ晴れた空、殆ど風もない環境のもとで記念撮影がなされ、担当した苫小牧福島県人会にとって忘れられぬ、大きな収穫があった総会でもありました。

国民体育大会が縁を運んでくれた

平成元年に北海道で開催されたハマナス国体のうち、苫小牧で行われた軟式庭球競技に出場した福島県選手を応援したことを機会に、同年九月七日に苫小牧福島県人会を設立しました。

それから十八年目に当たる本年、「福島県人会北海道連合会総

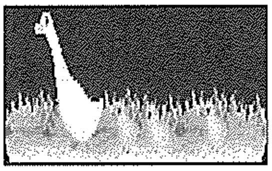
会を、苫小牧県人会の当番で苫小牧市で開催を」との要請にお応えして第三十四回総会を担当しました。奇しくも本年は、一月二十八日から冬季国体スケート競技大会が皇太子殿下をお迎えして苫小牧市で開催された年で、何か国体との縁に不思議さを感じています。

佐藤知事らが
会津藩士族の墓参

会津藩白虎隊の士中二番隊隊長原早太の二男直次郎は、北海道開拓使吏員として、明治二十二年一月に苫小牧他十五カ村戸長兼北海道警部・判任官六等・室蘭警察署勇払分署長として着任しましたが、苫小牧を第二の故郷と決め吏員を辞任して苫小牧勇払に永住し、漁業、牧畜、商業界で活躍しました。

直次郎は勇払白老漁業組合頭取、勇払水産組合組合長、畜産組合組合長等々の要職につき、明治三十五年から五期に亘り苫小牧村議会議員として地方自治に貢献、苫小牧市発展の基礎を築きましたが、大正九年九月二十五日に病没し、苫小牧市高丘の霊園に永眠しています。

苫小牧での総会に先立って、佐藤福島県知事、渡辺県議会議長、菅家会津若松市長から献花・墓参を賜りました。これは苫小牧福島県人会会員である原芳子家（直次郎の孫）ばかりでなく、苫小牧福島県人会にとってもこれに勝る光栄はありません。



ＯＢからのお便り

「皆さーん　お元気ですか。」

第十代次長　齋藤　哲夫

娘が札幌市立真駒内曙小学校に入学したのは、平成七年でした。それからあっという間の三年間。北海道に行きたくないと言っていた娘が、「私は道産娘だからイナカの福島なんぞ行きたくない。」という始末。

我が家族にとって北海道(札幌)は、本当に第二の故郷です。

北海道で好きなもの。ナナカマドに積もる雪の様子。ドライブ中に見るキタキツネ&エゾシカ。初夏に一斉に咲き誇る花々。ビールを飲み、喰らうジンギスカン。大自然に接してのゴルフ。実年齢よりウン十歳も若々しい県人会の皆様。

私が連合会総会でお世話になったのは、帯広、稚内、紋別においてでした。当時はバブルがはじけ、銀行の倒産など不安が募る世相でしたが、底には元気がありました。なぜか。北海道はカーちゃんの力が強いですから。

仕事での思い出は、県事務所のリニューアルと福島国体にあわせた母県訪問です。事務所は開設以来四十年を経過し、展示物なども古色蒼然としておりましたが、名古屋事務所の新設、大阪事務所の改装などがあって、この機を逃してはならじと財政当局と掛け合いました。皆様、札幌にお出での際はどうぞ県事務所にお立ち寄り下さい。

また、母県訪問では、八十余名の大応援団となり、福島、北海道の双方を応援しました。開会式の抜けるような青空。福島市長の「若者よ、本当の空に跳べ―」の声が耳によみ返ります。

私は現在、介護保険の担当ですが、間もなく退職です。暇があって、金がないかも知れませんが、できれば毎年北海道に行きたい。

本当に懐かしい三年間の北海道。北海道の自然。北海道の親切で元気な人々。大好きです。皆様に、又、お会いできる日を楽しみにしております。

連合会の活動

平成十七年度第二回役員会
平成十八年一月二十六日
札幌市「ホテルクレスト札幌」

平成十八年度第一回役員会
平成十八年五月二十七日
苫小牧市「グランドホテル
ニュー王子」

平成十八年度連合会総会

第三十四回連合会総会は、五月二十七日にグランドホテルニュー王子を会場に、佐藤栄佐久知事御夫妻をはじめ、渡辺敬夫県議会議長御夫妻や北海道知事（佐藤功胆振支庁長代理出席）、菅家一郎会津若松市長などを来賓としてお迎えし、会員百七十一名が参加して盛大に開催されました。

席上、知事感謝状が伊藤秀麻さん（浜中町）に、連合会長感謝状が田中和雄さん（苫小牧）はじめ九名の方に贈呈されました。

なお、次期開催地である紋別地区県人会から歓迎のあいさつがあり、来年の再会を誓い合っていました。

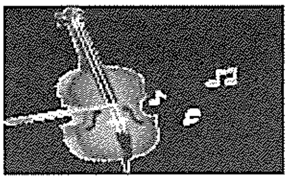
新会員紹介

札幌福島県人会

高瀬ノブ子（たかせ　のぶこ）　いわき市

旭川福島県人会

伊藤鈴子（いとう　すずこ）　須賀川市



母県動向

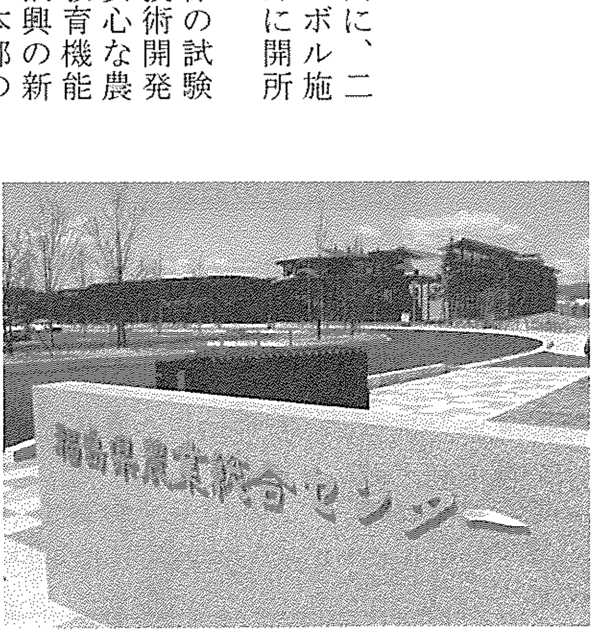
農業総合センターが誕生

郡山市日和田町高倉地内に、二十一世紀の本県農業のシンボル施設として、平成十八年四月に開所しました。

本センターは、農業関係の試験研究機関を再編統合し、技術開発機能を核として、安全・安心な農業を推進する機能、農業教育機能をも兼ね備えた本県農業振興の新たな拠点となるものです。本部の敷地面積は約五十六ヘクタール。

新品種開発や消費者ニーズに即した有機栽培等の技術開発研究を効率的に進めるとともに、安全で環境にやさしい農業の推進や農業生産現場における諸課題の解決、さらには県民との交流をとおして農業の魅力や重要性について積極的に情報発信するなど、大きな期待が寄せられています。

開かれた試験研究機関を目指し、本館の交流棟や展示温室などを県民が自由に見学できるようになっています。



「尾瀬」ラムサール条約登録湿地に！

国際的に重要な湿地を保護するラムサール条約に、昨年、福島・群馬・新潟の三県にまたがる尾瀬など二十カ所が新たに登録され、これで国内の登録湿地は三十三カ所となりました。ちなみに国内で最初に登録されたのは釧路湿原で、道内の登録湿地は十二カ所となりました。

尾瀬は面積八千七百十一ヘクタールの高層湿原で、尾瀬ヶ原や尾

瀬沼などがあり、ミズバショウやニッコウキスゲ、トンボ類や甲虫類など湿原特有の動植物が多く見られ、貴重な自然環境を保っています。

猪苗代湖が三年連続水質日本一

環境省が昨年十二月に発表した平成十五年度公共用水域水質調査結果において、猪苗代湖は三年連続で湖沼の水質（ＣＯＤ）一位となりました。県は平成十四年に「猪苗代湖及び裏磐梯湖沼群の水環境保全に関する条例」を制定し、地元の関係者と一体となって水環境保全に取り組んでいます。

昨年十一月、猪苗代湖の住民や環境保全活動団体等の代表が、全国二位の水質を誇る支笏湖を訪問し、地元の住民と初めての交流会を開き、水環境保全の取り組み等について意見交換しました。

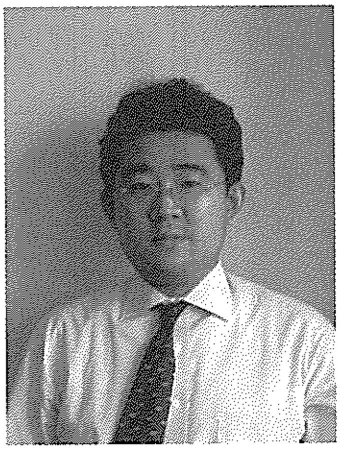
「会津ナンバー」の新設

ご当地ナンバーについては、昨年七月に十八地域が選定され、東北では会津と仙台ナンバーの新設が決定しました。今年三月に国土交通省で開催されたご当地ナンバー連絡協議会において、会津ナンバーの導入時期が、平成十八年十月十日に決定されました。

今後は、会津人としての自覚と責任を持ち、地域の一体感を醸成するシンボルとしての役割が期待されるとともに、会津の走る広告塔として認知度アップが期待されます。

新任職員自己紹介

主査　佐藤譲偉



はじめまして。このたびの人事異動により当事務所へ参りました佐藤譲偉（さとうよしい）と申します。出身は、郡山市の安積町（あさかまち）という郡山でも一番南のところです。ただ、高校卒業後は、大学では東京、県職員になってからは、ラーメンと蔵のまちの喜多方市、素晴らしい歴史と伝統のある会津若松市、県庁所在地で「もも」などのくだものがたくさんある福島市、そして今回の札幌市と渡り歩いております。

前の職場は、商業まちづくりグループというところで、商業の視点から街の中心市街地を元気にするとともに、商業と住民との共存を図ろうという仕事をやっていました。

さて、県人会の皆さまには、五月の連合会総会のみならず、物産展でのご来場やその他ことあるごとに何かとお世話になりまして誠にありがとうございます。

微力ではございますが、精一杯頑張ってまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

編集後記

七月、美幌観光和牛まつりに招待され、おいしい牛肉に舌鼓をうってきた。美幌峠に向かう車窓には色々な畑作物が作付けされた丘陵地が続き、美瑛に優るとも劣らない美しい景観が続く。今年のデスティネーションキャンペーンは「はなたび北海道」、地元の自然を見直すいい機会かもしれない。雄大な北海道だが、一旦山道に入ると、ふるさと福島県の風景が脳裏に浮かぶ。

さて、各県人会では、これから会津藩士等の慰霊祭や献花式をはじめ、港まつりでの県産モモの販売や物産展への協力など、事業計画が目白押しである。新たに県産モモの販売を計画している県人会もあると聞く。

道内に県人会はあまたあれど、活動の活発さとまとまりの良さでは福島県人会がぴかいち。

県人会の皆さん、今年も元気で県勢伸展に御協力をお願いします。

事務所からのお知らせ

北海道事務所のホームページをたちあげました。行事予定やトピックスの他、物産・観光展情報、県人会の活動状況など盛り沢山です。

また、福島県の観光情報や農林水産業の紹介などもあります。

ぜひ御覧になって、御意見をお寄せください。http://www.pref.fukushima.jp/hokkaido/